

8-4-20 国土情報専門委員会

1. 主な活動の記録

情報通信技術（ICT）の重要性が高まる中、わが業界が取り扱う国土の健全な保全のために必要となるデータ（＝国土情報）の定義、データの収集や管理の仕組み、データの配信や利活用などの研究を目的に活動を実施した。

特に、建設コンサルタント業務における ICT の活用によって得られる「国土 i-Management」は、国土の客観的な把握に有用であること、その他の多様な用途における活用可能性などにも期待できることから様々な業界からの視点も踏まえて検討した。

(1) 委員会の開催

委員会を9回（平成29年4～7月、9～12月、平成30年2月）開催した。なお、平成29年度は7委員で活動を行った。

(2) 国土情報の現状の把握、蓄積した情報の活用検討、今後の展開に係る研究

国土情報の管理・蓄積と提供可能性の検討とともに民間による国土情報の活用事例を調査した。その上で、建設コンサルタンツ協会会員の実務によって得られる成果について、その他の用途への活用可能性に関して検討を行った。

(3) 会員向けセミナーの開催

(2)の研究成果について情報提供することを目的に、会員向けセミナーを開催し、建設コンサルタンツ協会会員における国土情報の活用事例の報告、国土交通省における先進的な取り組み紹介、民間企業における活用可能性についての討議を実施した。

- ・日時：平成29年10月20日（金）
- ・対象：建設コンサルタンツ協会会員
- ・テーマ：ICTを用いた国土情報の管理・提供の可能性

（～ 建コン分野における ICT 活用「国土 i-Management」へのアプローチ ～）

■ セミナー構成：

① 建コン分野における ICT 活用「国土 i-Management」の可能性

（国土情報専門委員会）

② ロボット・AI が変えるインフラ管理
～i-Construction 維持管理への展開～

（国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課企画専門官 新田 恭士 氏）

③ データ流通による国際産業改革
（株式会社リブセンス 不動産ユニット
ユニットリーダー 芳賀 一生 氏）

④ 意見交換（全体）

(4) 建コンにおける ICT 活用「国土 i-Management」の活用可能性に係る研究

ICT 活用による社会インフラのメンテナンスの効率化・高度化の技術的な向上を見据えて i-Construction 等の施策動向を踏まえながら、建設コンサルタントにて得られる成果である「国土 i-Management」を調査・整理した。

さらに、土木分野における ICT の他分野への展開、応用の可能性について検討した。

2. 次年度の活動について

平成30年度は、本年度事業を継続して、主に以下の研究活動を実施する予定である。

(1) 平成29年度成果の運用に向けた検討

建コンとしての ICT 活用による他分野への展開、応用に係る研究を継続する。

(2) 会員向けセミナーの開催

(1)の研究成果について情報提供することを目的とした会員向けセミナーを企画・開催する。

(3) 委員会紹介ページの開設

建設コンサルタンツ協会ホームページへの委員会紹介ページを開設し、これまでの委員会活動成果等を掲載する。

（国土情報専門委員会委員長 政木 英一）